

理解度&釣れる度100%



マルキュー

優良 餌本



パワーエサ グツク



エサに
榴んだら
羨んでね!



Contents

- 02 ウドンセットの浅ダナ釣り
- 08 ウドンセットのチョーチン釣り
- 14 段差の底釣り
- 20 バランスの底釣り
- 26 グルテンセットの沖宙釣り
- 29 ウドンセットの沖宙釣り
- 32 ドボン釣り

2019 春 冬号

HERA BAIT POWER BOOK

●ブレンドの特性



ベース

●重くてバラける現代ウドンセットの中核を担うベースエサ。



エサ付けしやすい

●粗い麩と細かい麩が、エサ全体をまとめてエサ付けしやすくなる。



アピール

●下方向へ向かう細かい粒子がへら鮎にアピールする。



アピール

●粗いペレットが縦方向へ沈下してくわせエサにへら鮎を導く。



重さ

●バラケエサに全体に重さを付ける役割。

●エサの大きさ

実寸大



●作り方

「粒戦」100 cc、「とろスイミー」50 cc、「セットガン」100 ccに水200 ccを注いでかき混ぜて5～6分放置。そこに「セットアップ」200 cc、「セット専用バラケ」100 ccを入れてよくかき混ぜる。さらに、下から掘り起こすように混ぜ合わせ、ムラのない仕上がりにする。

ウドンセットの浅ダナ釣り①

持たせ系バラケ

●バラケブレンド

「粒戦」100 cc+

「とろスイミー」50 cc+

「セットガン」100 cc+

水200 cc+

「セットアップ」200 cc+

「セット専用バラケ」100 cc



+



+



+



+



+



●ブレンドの特性



開きでアピール

●粒状さなぎを大量配合し、強いバラケ性でアピール。さらに、経時変化しにくいエサに仕上がる。



エサ付けしやすい

●粗い麩と細かい麩が、エサ全体をまとめてエサ付けしやすくなる。



アピール

●下方向へ向かう細かい粒子がへら鮎にアピールする。



アピール

●粗いペレットが縦方向へ沈下してくわせエサにへら鮎を導く。



重さ

●バラケエサに全体に重さを付ける役割。

●エサの大きさ

実寸大



●作り方

「粒戦」100 cc、「とろすいミー」50 cc、「サナギパワー」100 ccに水150 ccを注いでかき混ぜて5～6分放置。そこに「セットアップ」100 cc、「セット専用バラケ」100 ccを入れてよくかき混ぜる。さらに、下から掘り起こすように混ぜ合わせ、ムラのない仕上がりにする。

ウドンセットの浅ダナ釣り②

抜き系バラケ

●バラケブレンド

「粒戦」100 cc+

「とろスイミー」50 cc+

「サナギパワー」100 cc+

水150 cc+

「セットアップ」100 cc+

「セット専用バラケ」100 cc



+



+



+



+



+



寒くなり水温が下がる
と、へら鮎の食いが落ち、大きなエサには食いつかなくなりやすくなります。そう
なると、へら鮎は水中で
バラけている細かい粒子
を吸うようになり、そこ
にくわせエサを同調させ
るウドンセット釣りが有
効になります。

ウドンセット釣りは、
近年、大会などを中心
に食いつきの状況を打開
するために1年中行なわ
れるようになり、また釣
り方もいろいろ研究され
抜きセットやちよい持
たせなど、釣り方のバ
リエーションが豊富にな
っています。ですが、基本
はウキのトップ先端まで
ナジませ、バラケエサが
抜けてくわせエサだけ
なっている力強いアタ
リを取ることに変わり
ありません。

釣りの組み立て方は、
まずは①のバラケエサを
ハリにしつかり付けてウ
キのトップ先端までナジ
むようにします。ナジま
ない場合は、エサ付け時
の圧を強めます。特にバ
ラケエサ上部（チモト部
分）を強く押さえます。

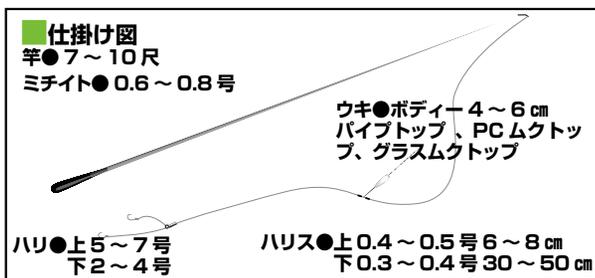
もし、これでもナジま
ない場合は、手水（水の
入ったポウルに手首まで
付けた手を熊手状にし
て）でバラケエサを30回
ほどかき回す。それでも
ナジまない場合には同じ
作業を繰り返します。ま
た、上バリエをワンランク
大きくするとエサ持ちが
よくなりナジませやす
くなります。

へら鮎が寄ってくる
ウキのナジミが少なく
なりますが、常にナジミ
幅を一定に保つことが
ポイントです。ナジんで



ウキが上がり、くわせエ
サだけになったところ
で、間を置かず力強いア
タリがでて釣れてくるの
が理想です。

力強いアタリがでてい
るのに乗らない場合は、
下ハリスを5cm短くしま
す。また、ウキがフワフ
ワして力強いアタリがで
ない場合は、下ハリスが
寄ったへら鮎に煽られハ
リスが張らないことが原



因と考えられますので、
この場合も5cm短くしま
す。また、この場合、下
バリエをワンランク大き
くしハリスを張らせる方
法もあります。

逆にサワリもアタリも
でない場合は、へら鮎が
食わせエサよりさらに遠

ウドンセットの浅ダナ釣り

釣り方のコツ

●くわせエサ

くわせエサは「力玉」や「感嘆」を使用します。ハリに付ける大きさも重要で、渋いときほど大きいとアタリがでません。「こんなに小さくていいの?」と思えるようなサイズがいいときもあります。エサのサイズを調整しながら釣りたい場合は「感嘆」をおすすめします。



ざかった位置にいるので、ハリスを5cm長くします。ここでは、下バリをワンランク小さくする

方法もあります。これでも改善されない場合は「セットガン」を「サナギパワー」に変更し、バラケエ

サを今までよりも早く抜くようにします(ブレンド②)。ブレンド全体を大きく変えてしまうと、バラけすぎて

しまったり、持ちすぎて

しまったりして難しくなります。エサ全体をまとめる「セットガン」に対し、「サナギパワー」はエサ全体をまとめながらも狙いのタナで開く特徴があります。

①ではウキのトップをしつかりナジませましたが、②はナジませてもす



ぐに抜けたり、1〜2目盛りの浅ナジミや、全くナジませないなどバラケエサの付け方を調整します。そして、バラケエサはなるべく小さく付けます。あまり大きいと水中で広く拡散してしまい、へら鯛も遠巻きになるので、肝心のくわせエサを食わせることができなくなります。

この釣り方の場合もハリス調整は同じです。アタリがでない場合はウキのサイズを小さくしたり、パイプトップのウキを使用していたらムクトップのウキへ変更します。むしろこの釣り方の場合はバラケエサをしつかりナジませる必要がないので、ムクトップが向いています。また小さなサワリやアタリもでやすくなります。

●ブレンドの特性

●エサの大きさ

実寸大



強力な集魚

●さなぎ粉大量配合による強力な集魚で魚を寄せる。



重さとまとまり

●強烈な開きのある「サナギパワー」をまとめる。



まとまり

●まとまりにくい「粒戦」をまとめる役割。



アピールで集魚

●「粒戦」がバラバラと落下してアピールし、魚を寄せる。



縦バラケ

●細かく下方向へのバラケを強調。タナへの集魚を強める。

サワリが強く出てアタリが多い、アタるタイミングも早いときは「セット専用バラケ」を「バラケマッハ」に変え、魚をバラケエサに近づけるようにする。



●作り方

「粒戦」100 cc、「とろスミー」50 ccに水200 ccを注いでかき混ぜ、5～6分放置。そこに「サナギパワー」200 ccを入れて軽く混ぜる。続いて「段底」200 ccを入れて20回混ぜ、最後に「セット専用バラケ」100 ccを入れ、下にある重いエサとよく混ぜるために、下から掘り起こすように混ぜ合わせる。

ウドンセットのチョーチン釣り①

持たせ系バラケ

●バラケブレンド

「粒戦」100 cc+

「とろスイミー」50 cc+

水200 cc+

「サナギパワー」200 cc+

「段底」200 cc+

「セット専用バラケ」100 cc



+



+



+



+



+



●ブレンドの特性

●エサの大きさ

実寸大



強力な集魚

●さなぎ粉大量配合による強力な集魚で魚を寄せる。



エサ持ちを調整

●エサ付けの圧加減でエサ持ちをコントロールできるベースエサ。



ペレット効果

●「粒戦」を剥がしやすくする。ペレット効果でエサ持ちと集魚も兼ね備える。



アピールで集魚

●「粒戦」がバラバラと落下してアピールし、魚を寄せる。



縦バラケ

●細かく下方向へのバラケを強調。タナへの集魚を強める。

●作り方

「粒戦」100 cc、「粒戦細粒」50 ccに水200 ccを注いでかき混ぜ、10分放置。そこに「サナギパワー」200 ccを入れて軽く混ぜる。続いて「セットアップ」200 ccを入れて20回まぜ、最後に「セット専用バラケ」100 ccを入れ、下にある重いエサとよく混ぜるために、下から掘り起こすように混ぜ合わせる。

ウドンセットのチョーチン釣り②

抜き系バラケ

●バラケブレンド

「粒戦」100 cc+

「粒戦細粒」50 cc+

水200 cc+

「サナギパワー」200 cc+

「セットアップ」200 cc+

「セット専用バラケ」100 cc



+



+



+



+



+



いまやチョーチンウド
ンセット釣りは、個々の
スタイルで確立されつつ
あり、複雑に細分化され
ている印象があります。
それによって難しいと感
じている人も多いでしょ
う。しかし、どんな釣り
方でも基本は同じ。迷路
に入っている方は、次の
ような手順で釣りを組み
立ててください。

エサは①の持たせ系で
スタートします。基エサ
を半分に分け、手水で10
回ぐらい混ぜてから打ち
始めます。ここでナジミ
幅を1目盛り残しまで深
く入れます。ナジまない
ときは、エサ付けの圧を
強くしてください。逆に
沈没するような竿を1
回持ち上げて、エサをバ
ラけさせて1目盛り残
しにします。そこからバ
ラケが抜けだすとジワジ

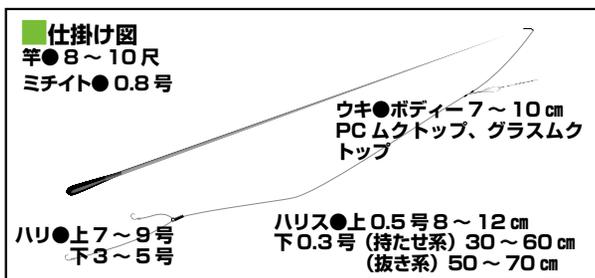
ワとウキが上がってきま
す。

この繰り返しの中で、
アタリがでる位置を確認
します。このとき、2目
盛り残しでアタるなら、
必ずその位置まではエサ
を持せるようにします。
最初に出るアタリの位置
までエサを持たせること
が、アタリを続かせるポ
イントです。

理想的は、サワリが
あつてナジんだところで
アタリができればOK。ア
タリがでないときは縦誘
いを入れて、もういち
ど落下の動きを演出しま
す。縦誘いを入れたあと
も、バラケエサが抜けな
いで、ウキがジワジワ上
がる感じにします。バラ
ケが抜けてしまうなら、
手水で10回ほど混ぜてエ
サ自体の粘りをだして持
たせます。



サワリが少ないとき
は、下ハリスを5cmのば
してみます。また、エサ
が粘りすぎたときは、基
エサをひとにぎり合体さ
せて開きを戻します。
この繰り返して釣って
いくのですが、魚の寄り
がきつくなっても1目盛
り残しまでバラケエサを
持たせることを必ず意識
してください。



持たせ系で釣ってい
て、ナジミ途中のサワ
リがない、バラケが抜け
てからサワリがでてアタ
る。下ハリスを60cmまで
伸ばしてもサワらない、
アタらないなら、へら鮒
は遠巻きと判断して抜き
系の釣りに変更します。

ウドンセットのチョーチン釣り

釣り方のコツ

●くわせエサ

冬から春先はへら鮎の活性が低い時期なので、基本的には軽めのくわせエサを使用し、バラけた粒子に同調させるようにします。日によってよくアタるくわせエサというものがあるので、色々試しながらアタリが多くでるものを見つけていきましょう。エサ持ちをよくするため「力玉」や「力玉大粒」はさなぎ粉漬け、また、「粒戦」の粒子と似せるため「感嘆」に「軽さなぎ」を混ぜた（「感嘆」1袋に「軽さなぎ」30cc）“さな感”がおすすです。



抜きといっても着水からの上層から抜けるのではなく、ナジミはでないけどオモリ近辺で抜ける、くわせエサが張ったときには完全に抜けているイメージです。

これをバラケエサの圧調整で持ち加減を調整しますが、エサが持ちすぎなら、手水で軟らかくして抜けやすくします。抜き加減が分からない人は、ちよつとナジむぐらひから始めましょう。1日目盛りでも2日目盛り

でもいいので、少し持つところから慣れていき、圧の加減で調整することを身に付けます。

厳寒期になると、アタリが極端に少なくなります。こうなると縦誘いを入れなければアタリすらだせなくなります。アタるタイミングはやってみないと分からないので、何度か繰り返します。そ

して、3回誘ってアタるなら、3回以上は誘わないでエサ切りします。こうすることで釣りのリズムを作ります。何度も何度も誘えばアタリがでることもありますが、それでは次第にへら鮎の寄りも少なくなってしまうので、3回なら3回、5回なら5回と見極めて釣っていくことが重要です。



●ブレンドの特性

●エサの大きさ

実寸大



アピールとバラケ性

●バラケエサの中から「粒戦」がパラパラと落下し、魚にアピールする。



下方向へのバラケ性

●ウワズリを防ぐため、下方向へのバラケ性を強調した「段底」をベースにする。



軽さとまとまり

●エサ全体をまとめて、軽い仕上がりにする。



重さと集魚

●重さと集魚を担う。エサを塊のままタナまで入れられる



重さとまとまり

●素材との粘着性があり、軟らかくしても持つエサになる。

●作り方

「粒戦」50 cc、「粒戦細粒」50 cc、「とろスイミー」50 ccに水150 ccを注いでかき混ぜ、固まるまで放置。時間は気温や水温によって異なり、真冬では10分以上。エサが固まってから「段底」200 cc、「BBフラッシュ」100 ccを入れ、指を熊手状に広げてかき混ぜる。このとき、先に入れた重いエサがボウルの底に固まっているので、底からひっくり返すように丁寧にかき混ぜる。

段差の底釣り①

「粒戦」効果でアピール重視

●パラケブレンド

「粒戦」50 cc+

「粒戦細粒」50 cc+

「とろスイミー」50 cc+

水150 cc+

「段底」200 cc+

「BB フラッシュ」100 cc



+



+



+



+

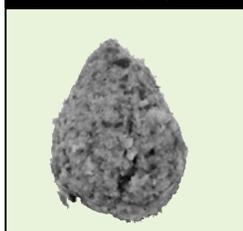


+



●ブレンドの特性

●エサの大きさ



下方向へのバラケ性

- ウワズリを防ぐため、下方向へのバラケ性を強調した「段底」をベースにする。



ボソっ気とバラケ性

- 手直しを繰り返してもボソっ気がエサに残り、タナで開くようになる。



まとまり

- エサのまとまりがよくなり、持たせ加減の調整がしやすい。

●作り方

「段底」300 cc、「バラケマッハ」100 cc、「セットアップ」100 ccをエサボウルに入れた段階で、粉の状態がかき混ぜる。そこに水100 ccを注ぎよくかき混ぜる。このとき、指を熊手型に広げて丁寧に混ぜる。決して練り込まないことがコツ。

段差の底釣り②

ゆっくりバラけて食い渋り時に効く

●バラケブレンド

「段底」300 cc+

「バラケマツハ」100 cc+

「セットアップ」100 cc+

水100 cc



+



+



+



●エサの手直し

ウワズリがきついときは、魚を落ち着かせるために小分けにしたエサに1回手水を打って「段底」をパラパラ振りかける。こうすると、ウキがしっかりナジむ＝タナまでエサが持つので、次第に魚を下げるができる。反対にサワリが少ないときには「バラケマツハ」を振りかけてタナでの開きを促進させる。

段差の底釣りは、厳寒期から春先の渋い時期に有効な釣り方です。メーターやチョーチンのセツト釣りでアタリが少なく、釣果が伸びないときに出番が多くなります。基本的には渋い時合の釣り方ですので、攻撃的に攻めて数多く釣るといふよりは、確実に1枚1枚を釣っていく、ヒット率重視の釣りになります。

このヒット率を上げるには、確実な食いアタリをだすこと、見極めていくことが重要です。そして、底に付いたくわせエサを食わせるためには、へら鮒を底方向へ呼び込まなくてはなりません。そのため、一番よくないことがウワズリになります。魚がウワズってしまうと、食いアタリがでにくい、イトズレなどの余

計な動きがでてしまうなど、この釣りにおいては致命的なデメリットが生じますので、細心の注意が必要です。

このウワズリを完全に防ぐことは難しいかもしれませんが、できるだけウワズらせないように釣るのがこの釣りの生命線。それには、エサをタナまで届けるという意識が必要です。そこでバラケエサの使い方が重要になります。

まず、作ったエサを半分に分けて使います。打ち始めのナジミ幅を3〜4目盛りでるようにします。自分のエサ付けでこのナジミ幅がないときは、エサ付け時の圧を強くします。

次第に魚が寄ると、当然エサ持ちが悪くなりま

仕掛け図
 竿●8〜18尺
 ミチイト●0.6〜0.8号

ウキ●ボディー 10〜17cm
 細パイプトツプ、PCムクトツプ、グラスムクトツプ

ハリス●
 上0.5号 10〜15cm
 下0.25〜0.4号 45〜70cm

ハリ●上6〜7号、下2〜4号

し練り」を加えてエサのエアーを抜いてハリ付けします。これでも持たない場合は、手水を打ってエサ全体を攪拌し、素材の粘りをだすことでエサ持ちをよくします。いずれの対応でも、決してエサを練り込まないことが

重要

このようにエサ付けや手直しで対応し、魚が多くても少なくとも毎回3〜4目盛りのナジミ幅をキープすることが、ウワズリを防ぎ安定した釣果に結びつくコツです。

オモリ 実寸大

「絡み止めスイッチシンカー」0.8g + 0.25mm厚
 板オモリ 8mm × 30mm ~
 「絡み止めスイッチシンカー」1.2g + 0.25mm厚
 板オモリ 10mm × 30mm

段差の底釣り

釣り方のコツ

●くわせエサ

くわせエサは確実に底に付いていることが大前提なので、底から離れにくい重さのあるくわせエサを使うのが基本です。タピオカ系の「魚信」やわらびうどん系の「特選わらび彩」などが有効です。ただ食いが渋いときや、底の状態によっては軽いほうがアタリがでるときもあるので、「力玉」、「力玉大粒」、「感嘆」なども用意しておくとういでしょう。

重いくわせエサ



軽いくわせエサ



●ブレンドの特性



重さと集魚

●サツマイモ配合による集魚と重さが底釣りに最適。グルテン量が少ないのでサクッと仕上がる。



エサ持ち

●グルテン量が多いのでしっかりハリに繊維が残るので、エサ持ちの核となる。



膨らみ

●グルテン量が少なくふくらみが早いので、「グルテン α21」をゆっくりに膨らめます。

●エサの大きさ

実寸大



膨らみ強調

●「グルテン四季」より粗いのでより膨らみを早くすることができます。

●作り方

「いもグルテン」50 cc、「グルテン α21」50 cc、「グルテン四季」50 ccをグルテンボウルに入れ、粉の状態ですく20回ぐらい混ぜてから水150 ccを入れる。親指、人差し指、中指の3本で40～50回まぜて、少し固まりだしたらOK。ポイントとして、ブレンドが3品なのでよく混ぜないと均一にならないので注意したい。

バランスの底釣り①

両グルテン

●エサブレンド

「いもグルテン」50 cc +
「グルテン α21」50 cc +
「グルテン四季」50 cc +
水150 cc



+



+



+



●ブレンド調整

ウキの動きが悪いときや寄せながら釣りたいときは、もう少しエサを開かせる。その場合は「グルテン四季」を「新べらグルテン」に変える。

●ブレンドの特性



集魚とエサ持ち

- グルテン配合によるエサ持ちの良さ。



重さと集魚

- ペレットによる集魚と重さ。



重さと集魚

- ペレットの集魚と重さに加え、ざらつかせてまとまりすぎないようにする。



エサの開き

- 上記の3つのエサを開かせる役割。

●エサの大きさ

実寸大



●作り方

「ダンゴの底釣り冬」100 cc、「ペレ底」100 cc、「粒戦細粒」50 ccをボウルに入れ、粉の状態をよく混ぜてから水200 ccを入れる。これをよく混ぜてから「バラケマッハ」150 ccを入れ、水分が全体にいきわたるまでよく混ぜる。

バランスの底釣り②

グルテンセット

●バラケブレンド

「ダンゴの底釣り冬」100 cc+

「ペレ底」100 cc+

「粒戦細粒」50 cc+

水200 cc+

「バラケマッハ」150 cc



+



+



+



+



冬〜春の時期、新へら狙いなどで出番が増えるのが両グルテンの底釣りです。グルテンエサの使い方は、作ったエサの半分をボウルの隅に寄せ、手の甲で1回押ししてエアー抜きします。これをつまんで丸めて使います。グルテンエサは軽いので、2〜3目盛りナジミが目安です。もし、ナジミがでないときは、4〜5回押し練りしてナジミ幅をだします。

魚が寄ってきてナジミが少なくなったらエサが持つてない証拠です。ので、再び押し練りをしていきます。ナジミ幅がないのはエサが持つていないことですが、エサを大きくするのはNG。絶対に小エサで持つようにしてください。

魚が寄ってサワリがで

ているのに食いアタリに つながらないときは、ハリが大きいか、エサがバラけすぎていると判断します。また、エサが底に着いてからアタらない場合は、ヘドロ、ゴミなどで底の状態が悪い可能性が考えられます。エサ打ち点をずらす対処をしますが、どうしてもダメな場合は、サオを交換して打つ場所を変える、最悪の場合は場所を移動することになります。

カラツンが目立つときは、エサをできる範囲で小さく付けてみてください。ただ、これでナジミがでないのはエサが持つていないことですので、注意してください。また、タナを3cmずつづらす、エサ打ち点を一定にするなどの対応も有効です。食わせようとしてエ

●オモリ 実寸大

「絡み止めスイッチシンカー」0.8g + 0.25mm厚板オモリ 8mm × 30mm ~ 「絡み止めスイッチシンカー」1.2g + 0.25mm厚板オモリ 10mm × 30mm

サを軟らかくするという方法もありますが、こうするとエサが抜けやすくなり、この場合、持たないでカラツンになることも多いので、気を付けましょう。

グルテンのアタリはムツと押さえて込むような

仕掛け図
 竿●底が取れる長さ
 ミチイト●0.8号 (フロロ推奨)

ウキ●ポディー8~18cm
 細パイプもしくはPCムクトップ

ハリス●0.4号上35~40cm
 下40~50cm
 (段差5~10cm)

ハリ●上下4~6号

ものが多く、新へらならなおさらです。ですから、ツンとかカチツというアタリだけではないことも頭に入れておきましょう。

両グルテンでは動きが少ない、へら鮎の寄りをキープできないときに

バランスの底釣り

釣り方のコツ

●くわせエサ

グルテンセットのくわせエサは、しっかり持つものを使います。基準となるのが「わたグル」で、多少の手もみなどで調整しやすいのが「凄グル」、少し重くするなら「グルテンα21」です。いずれも単品作りでOKです。共通するのはエサ持ちのいいグルテンであること。必ず持っていないければならないので、固形チックな方向にします。



は、グルテンセットを試してみよう。
バラケエサを半分に分け、そのままエサ付けします。グルテンは両グルテンと同じ使い方です。これでエサを打ってみてナジミ幅を確認します。ナジミ幅の目安は3

〜4目盛り。もしナジミが少ないときは、バラけやすい、バラケエサを押し練ります。
グルテンのアタリはムツと押さえ込むようなものと先に記しましたが、グルテンセットの場合、バラケエサを食って

いる場合は、ツンとかカチツというアタリもできます。
底釣りによくある失敗

例がエサが持つていないこと。サワリやアタリの動きがいい感じでも、でも空振るときは、エサが持つていないことによるカラツンの可能性があるからです。くわせのグルテンは必ず持つ

タイプを使用し、固形チックな方向になり、バラケエサもバラけない方向で調整します。

エサを持たせるためにハリを大きくするのも一手ですが、大きなハリになるとアタリがでにくくなることもあります。そういう場合には、ウキサイズを大きくして対応しましょう。



●ブレンドの特性



エサ持ち

●麩とグルテンがミックスされたエサで、エサ持ちをよくすることができる。



縦バラケ

●バラケ性に優れるが、重さがあり縦にバラけるのでタナが安定する。



タナで開く

●手直しを繰り返してもボソッ気がエサに残り、タナで開くようになる。

●作り方

「グルバラ」300 ccをボウルに入れ、水150 ccを注ぐ。軽くかき混ぜてドロドロの状態にする。そこに「サナギパワー」200 cc、「バラケマッタ」200 ccを入れてよくかき混ぜる。「グルバラ」はネバリがあるので、先に水でドロドロにすることでダマになりにくいエサになる。

グルテンセットの沖宙釣り

しっかり持ってタナで開く

●バラケブレンド

「**グルバラ**」300 cc+

水150 cc+

「**サナギパワー**」200 cc+

「**バラケマツハ**」200 cc



●くわせエサ

「**グルテン α21**」50 cc+**水**60 cc



●作り方

「グルテン α21」50 ccをグルテンボウルに入れ、水60 ccを注ぐ。均一に混ざるまで丁寧にかけ混ぜる。指先に少しねっとり感が感じるくらいまでかけ混ぜる。

グルテンセットの沖宙釣り

釣り方のコツ

グルテンセットは、新
べら放流後の晩秋や、口

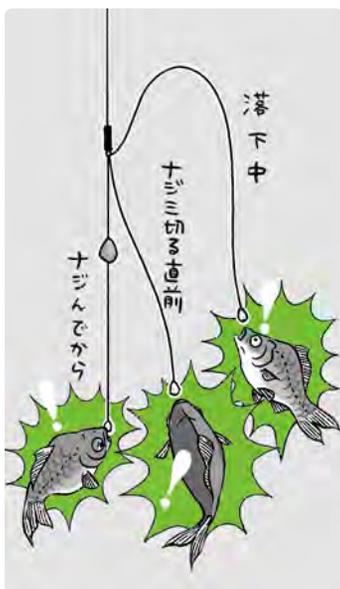
を使わなかった新べらが
動きだす春先に出番が多
い釣り方です。そして、
食い気のない旧べらを相
手にしたくないので、長
竿を使い沖をねらいま
す。タナは、その日の魚
の状態によって変わります。
1.5〜2mくらい
でスタートし、深い場合
は2.5〜3m、浅い場
合は1mとタナを探りま
す。

釣り方の基本は、バラ
ケエサをしっかりとナジ
ませ、ジワジワバラける
ようにし、ゆっくりと近
づくへら鮎にグルテンを
食わせませす。アタリはグ
ルテンの落下中や、ナジ
ミ切る寸前、ナジンでサ
ワリがでてからのアタリ
になります。へら鮎が近
づくタイミングに合わせ

て下ハリスの長さを調整
します。

また、新べらのアタリ
はムツと押さえるものが
多く、またグルテンの落
下中での食いはアタリ
が小さくなりますので、
ちよつとしたウキの変
化にもアワせていきます。
ただし、無用なウワズリ
を防ぐためにも、ウキが
しっかりとナジンでからの
アタリに的を絞ります。

エサ使いのポイント
は、バラケエサは小分
けにして、一部に押し練
りを加える。グルテンも
一部に押し練りを加えて
使用します。ナジミ幅が
4目盛り以上でるように
して、なおかつ深くナジ
んでそのまま維持するぐ
らいのエサ持ちが必要で
す。ナジミ幅がでないと
きには、押し練りを練り
返し、バラケ性が強くウ



キの戻りが早いときに
は、バラケエサ・グルテ
ンエサともに手水を打っ
てネバリをだしてエサ持
ちをよくします。

● **オモリ** 実寸大

0.25 mm厚 板オモリ 17 mm × 18 mm ~ 17 mm × 24 mm
--

■ **仕掛け図**

竿 ● 15 ~ 21 尺
ミチイト ● 0.8 号

ウキ ● ボディー 6 ~ 12 cm
細パイフトップ、PC ムクトップ、
グラスムクトップ

ハリス ●
上 0.5 号 15 ~ 30 cm
下 0.3 ~ 0.4 号 50 ~ 80 cm

ハリ ● 上 7 ~ 8 号、下 3 ~ 5 号

ウドンセットの沖宙釣り

厳寒期向きの軽いブレンド

●パラケブレンド

「粒戦」100 cc+

「とろスイミー」50 cc+

水150 cc+

「GTS」200 cc+

「軽麩」200 cc



+



+



+

●エサの大きさ

実寸大



+



●ブレンドの特性



汎用性

●エサのまとまりがよく、バラケ性・重さが中間のエサで幅広く使用できる。



軽くてバラける

●軽くバラけるエサで、粒子が細かく、最後の硬さ調整などに適している。



アピール

●バラケエサの中から粒状のペレットがパラパラと落下し、魚にアピールする。



エサ持ち

●素材との接着性があり、軟らかくしても持つエサになる。

ブレンド調整

軽いブレンドなのでへら鮎の寄りがよいときは、「GTS」と「軽麩」を「セットアップ」を「セットアップ」300 ccと入れ替えて、しっかり持たせるようにする。



持たせやすい

●エサのまとまりがよくなり、エサの開き・持たせ加減の調整がしやすい。

●作り方

「粒戦」100 cc、「とろスイミー」50 ccをボウルに入れ、そこへ水150 ccを注ぐ。軽く混ぜて完全に固まるまで約10分放置する。そこへ、「GTS」200 cc、「軽麩」200 ccを入れ、指を熊手状に広げてかき混ぜる。

ウドンセットの沖宙釣り

釣り方のコツ

ウドンセットの沖宙釣りは、厳寒期になって短竿ではなかなかアタリがでないときに有効な釣り方です。沖に着く新べらも混じることから、数釣りというよりは型が狙えるところも魅力。それほど釣果がでない時期だけにポツポツと良型を揃えられるので、面白い釣り方でもあります。

この釣り方は竿が長くなるので、バラケのコントロールが難しくなります。ですから基本は抜き系ではなく、しっかりバラケをナジませてからの釣りになります。

バラケエサは小分けにして、一部に押し練りを加えて打ち始めます。くわせエサをつけて、4〜5目盛りできるようにエサ落ちを設定します。バラケエサを付けて、ナジミ

幅が3〜4目盛り以上出るようにし、ここから深くナジんでそのまま維持するくらいにします。

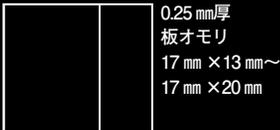
ナジミ幅がでないときは押し練りを繰り返し、バラケ性が強くウキの戻りが早いときには、手水を打ってネバリをだして調整します。魚が寄ってきたときも同じような方法で対処します。

ナジんでからバラケが早めに抜けてアタるようなときは、そこそこの活

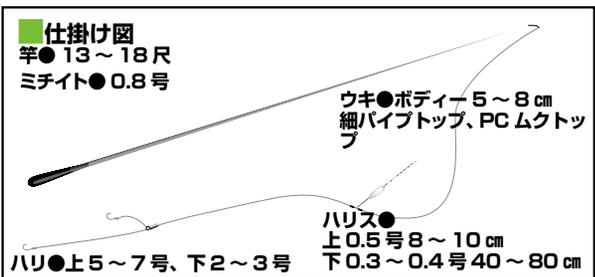
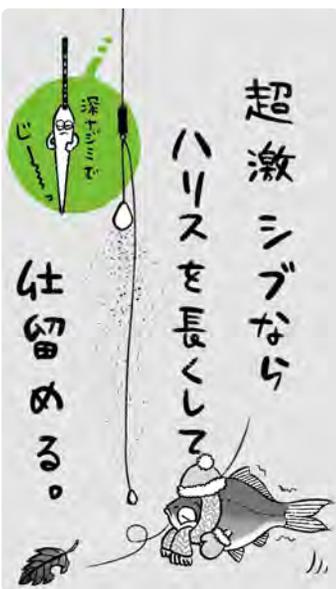
性がありますので、ハリスは短めで倒れ込みのアタリをねらいます。このときは、PCMクトップを使うのもあります。

逆に、バラケが早めに抜けてしまうとアタらないときは、渋い状況でするので、ハリスは長めになります。渋ければ渋いほど、ウキをしつかりナジませてじっとさせて釣っていきます。アタリが遅いですが、アタれば釣れるぐらいの感覚です。

●オモリ 実寸大



0.25 mm厚
板オモリ
17 mm x 13 mm ~
17 mm x 20 mm



●ブレンドの特性



強力な集魚

●さなぎ粉や大きめの麩が大量に配合されており寄せ効果が抜群。



集魚効果

●比較的細かい麩で出来ており広く拡がるので広範囲からへら鮒を寄せる。



エサ持ち

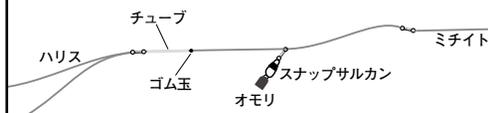
●エサ全体をオブラートのように包み込みジワリジワリと膨らんでいく。

●作り方

「粘麩」50 cc、「新B」300 cc、「段差バラケ」200 ccをエサボウルに入れたらよく混ぜる。ここでしっかりかき混ぜないと水を入れたときに「粘麩」が“ダム”になってしまいます。水100 ccを入れ、流れがない釣り場では30回ほど、流れがある釣り場ではそれ以上かき混ぜ、エサのコシをだします。ハリにしっかりと残るようなタッチに仕上げます。

●オモリ0.5～3号

オモリの大きさは単純にオモリが流されない大きさ。コトコテ野釣りの場合は「ギリギリまで軽くする」など神経質にならなくてもよい。



ドボン釣り

アタリが出るまで待てる集魚とエサ持ち

●パラケブレンド

「粘麩」50 cc+

「新B」300 cc+

「段差バラケ」200 cc+

水100 cc+



+



+

●エサの大きさ

実寸大



+



ここで紹介するドボン釣り（オモリを底に付けて釣る釣り方）のエサや釣り方は、いわゆる「コテコテの野釣り」を想定したものです。魚影が少ない釣り場、1日やって数枚しか釣れない釣り場や、大型のへら鮒相手、または川の本流などでじっくり腰をすえて狙うときのパターンです。

ドボン釣りのメリットは、風で仕掛けを振り込みづらいつき、重めのオモリを使用することで同じ場所に振り込めること。川などで、強い流れがあっても仕掛けを止められること。ハリスが底を這うようになり、エサが安定することで警戒心の強い大型を狙いやすいなど、いくつもあります。バラケエサは大きく広がらず、くわせエサのグ

ルテンの近くに塊のまま置いておくと考えます。それは、へら鮒が寄ってきたとき、バラケエサが水中で広く拡散してしまっているのとへら鮒も分散してしまい、肝心のグ

ルテンを食ってくれないからです。へら鮒が釣れたとき、バラケエサがハリに残ってくるオツリバラケで全く問題はありません。逆に、そのぐらいのエサ持ちにするのが大きなポイントです。バラケエサのキーになるのが「粘麩」で、エサ全体をコーティングしてエサ持ちをよくしてくれます。「粘麩」抜きで練り込む方法もあります。塊のまま置いてくるようなバラケエサを作るには100回以上練り込まなくてはならず、麩を練り潰してしまつたため、

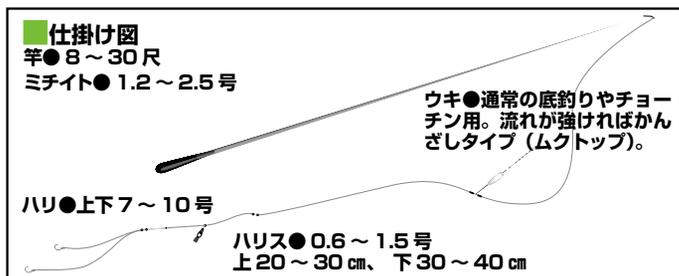
極端に開きも悪くなり労力もかかります。

「新B」は大量のサナギ粉と大きめの麩が魚影の少ない野釣り場でへら鮒を寄せるのに威力を発揮します。「段差バラケ」は麩の粒子が細かく軟らかいので「新B」の荒い麩の開きすぎを和らげてくれます。

極論になりますが、このパターンでアタリがでなければ「近くにへら鮒はいない」と言えるほど集魚力抜群なバラケエサです。

くわせエサには「野釣りグルテン」。ニンニクやさつままいもが配合されており集魚効果抜群。またグルテン繊維も強くハリにしっかりと付いているのでアタリがハッキリでます。

釣り方のポイントは、



仕掛け投入時に真っ直ぐに振り切り、仕掛けをピンと張らせた状態にします。水面にでるウキの目盛りは、自分の見やすい目盛りで構いませんが、流れ川などの場合は、

ドボン釣り

釣り方のコツ

●くわせエサ

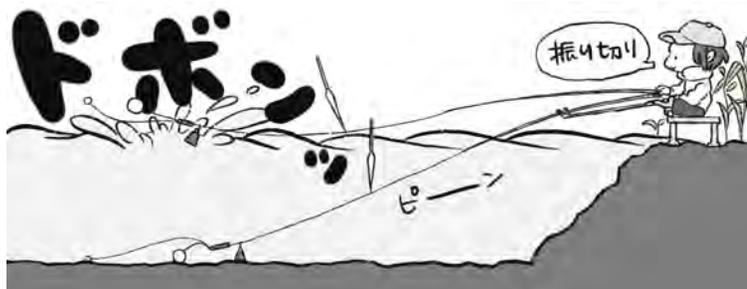
「野釣りグルテン」

「野釣りグルテン」はスティックの袋に小分けにされています。スティック1袋分をグルテンボールに入れたら、空袋に書いてある水量を入れます。流れがない釣り場であれば標準水量、流れがある釣り場では硬めにします。水を入れたら30回ほどかき混ぜます。グルテンエサを作る際、水を入れたらグルテンボールを揺すって作る光景を見かけますが、その作り方ではマッシュ成分とグルテン繊維が分離してしまい、仕上がったときにマッシュが強い部分、グルテンが強い部分とムラができます。水を入れたら、怖がらず勢いよくかき混ぜてください。その後、3～5分放置してできあがりです。



●エサの大きさ

実寸大



流れの強弱がありトップがシモッて（流れによりトップが潜ってしまうこと）しまいます。そんな場合はトップ付け根近く

まで水面上にだし、あとは竿を手前へ引いたり前へ出したりしながら調整します。

アタリは消し込みや食い上げが多くですが、それ以外には1目盛りぐらい小さくモゾモゾしたり、トップ全体が震えるようなアタリもありますので、怪しいなと思ったらアワせてみてください。

また「アワセ切れ」に要注意。仕掛けがピーンと張った状態の釣りなので、強くアワせてしまうとハリス切れを起こしやすいです。ドボン釣りでは消し込みなど大きなアタリがでるので、つい強いアワセをしてしまいますが、強いアタリるときほどアワセはソフトにしましょう。

専用ならではの 対応力。

これから出番が増え始めてくる、段差の底釣り。
チリチリとバラけさせてくわせエサへ誘う、
塊のまま抜いてアピールするなど、
アプローチによってバラケエサのブレンドはさまざまですが、
ベースは「段底」で鉄板。
タナまでの持たせやすさ、縦方向に特化したバラケ性など、
専用エサならではの特性で段差の底釣りを強力にサポートします。



●段底 400g (チャック袋)